

令和3年度前期生徒総会 激励の言葉 (R2.4.30)

校長 高瀬 知郎

雄中生の皆さん、リモートによる生徒総会への参加、おつかれさまでした。コロナの感染状況が再び深刻な状態となり、全校生徒が一堂に会することが難しくなったためのやむを得ない措置でした。しかし、生徒会本部、専門委員長のみなさんの周到な計画と準備により、スムーズに進行することができました。本当にありがとうございました。

令和3年度前期生徒会の活動スローガン「繋」には、「コロナ禍のこのような時代だからこそ、人と人との繋がりを大切にして生きていかなければならない」という強いメッセージが込められていると感じました。マスクを付けての生活が当たり前となっている今日、顔の表情を通して人の気持ちを読み取ることが難しくなっています。だからこそ、自分から進んで挨拶をするなど、積極的にコミュニケーションをとろうとする姿勢が大切ですね。人間関係をよくする第一歩は挨拶です。

また、自分から挨拶できる人が多い学校ほど、いじめが少なく学習成績も高い傾向があると言われていています。自分自身をよりよく高めていこうとする姿勢が、そこに表れるからでしょう。生徒会を挙げての「挨拶運動」には、そんな大きな意味が込められています。「明るい学校」「楽しい学校」の実現は、まず挨拶から。「挨拶」ひとつから学校を変えていけるのです。廊下でも教室でも地域でも、明るい挨拶があふれる学校にできるといいですね。

さて、この機会に改めて確認しておきたいことがあります。それは、「学校の主人公は生徒」であるということです。学校をよくするのも悪くするのも、生徒のみなさん次第です。私たち教職員は、みなさんによる学校づくりの、そのお手伝いをさせていただいているに過ぎません。自分たちが、一日の大半を過ごし、そこで学び成長していく学校を、一体どんな場所にしていくのか。自分達生徒でそれを決め、実行していくのが「生徒自治」の力です。

そして、何よりもその「生徒自治」の力で全校を挙げて取り組んでほしい課題、それは「いじめ」です。「いじめ」は中学校最大の問題です。なぜなら大切な仲間の「命」に関わるからです。雄山中学校の生徒、雄中生のただの一人も、「いじめ」に苦しみ、学校に来られなくなる状態になってほしくない。学校は、友と交わり様々な経験を通して中学生が最も大きく成長できるかけがえのない場所です。家では決して経験できないことを経験できる場所です。そんな貴重な、たった3年間しかない中学時代を、心ない「いじめ」なんかで1日たりとも失ってほしくない。

だからこそ、自分たちの「生徒自治」の力で、大事な仲間をいじめから守り抜かなければなりません。それができないようでは、生徒会の存在の意味が問われます。暴力・暴言・悪口・陰口・仲間外し・いじり・からかい・いやがらせ等の「いじめ」は絶対に許さない！ その決意をしっかりとって、全校を挙げて「いじめ」に立ち向かっていってください。その先に、私達が目指す雄山中学校の理想「明るい学校」「楽しい学校」「美しい学校」があるのです。明るくて、楽しくて、美しい。最後の「美しい」は、校舎や環境だけでない。そこに集う人々の「心の美しさ」こそを表しているのではないのでしょうか。

生徒・教職員全員で、「明るく、楽しく、美しい」雄山中学校を実現させましょう！

明日からの「生徒自治」の学校づくりに期待しています。